謡譜童蒙

中村俊定文庫
文庫 18
325

昌平坂學問所

桃諧童の的序

たゝやすそ桃諧童一取の序者歟

なり者てハあれ[illegible]刻者の好ゝ

ゝ人の志ゝ[illegible]ハたゝ[illegible]ゝ

の位を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

ゝ居天其[illegible]ゝ[illegible]ゝ

されば竹窓先生の高弟なる石之先生ハ
とて茶の法をつたへ侍る人
なりけり〳〵武陽の日
本橋のほとりに料理茶屋
花月の細工に優れ幽玄の家す
東都のこゝろをもの知あはれ

自笑を得意味を考ひ
とかゝ天無名の事名一帙を編集
奥ゆきの秘蔵ゆゑ世にあらはす
ハ茶の室よりこゝろ
高のこゝろ乙なるかの指南を好むの
茶の道ふるきを慕

見さしを補ひ刈り奉りて先生
の手誠を学ばんと思ひ女子の
俳士あるべんかすかるべき俳の
壮なる人よりやあらず
志うんかも射る意を的とする
ものなるべ面かはるべき中な

ことをえさしやまかまと
補ひなるべし元図べ俳諧
ばかの的やいふまとすれ
宝暦甲戌仲夏
下濱重人雪九去

諸諸童の句

作 翁 叢人 遺帰
下濃 玉人 雪丸 技合

中村俊定文庫

凡例

此次第あらつ書日深秋れて
丁を探座しおちるしを
側切分つのしるや

一 季大 庭臺	二 萬立 雪齋	三 鯉門 沾涼	四 旨原 催林	五 嘉廷 眠牛	六 秀億 中和
七 紀逸 来示	八 米仲 霍人	九 沾山 蒼狐	十 珠来 一渓	十一 環山 五百貫	十二 買明 毋笠
十三 田社 良雨	十四 樓川 園二	十五 栖霍 子鷹	十六 有佐 積羽	十七 超雪 負屋	十八 心祇 万英
十九 平砂 負暦	廿 書永 乾什	廿一 祇丞 長霍	廿二 渭北 尹督	廿三 柳尾 唄國	廿四 英屋 旧室
廿五 再賀 金羅	廿六 文卿 右簾	廿七 吉門 負堂	廿八 長隠 点悪	廿九 湖十 海旭	卅 白潭 瓜頂
卅一 雑口 負因	卅二 由林 負風	卅三 存義 社変	卅四 春来 万丁	卅五 清泉 菊童	

和うカニ作ヘシ俗名句作ヨシ十八大伝説の有るを知らず新爰ニ出ス

句ヲ考シ

○ 李子大点

十つ書てとゝ寿のたとへ

十一裏面より井戸の蛙の種を思ひ

十二あすかゝ仏ゝ法花経川

十三屋の居ぬやうな家宅

十四矢の力落ぬよう久ゝ拵ゑおく

十五中ゝの押しを使田のぬうゝみ

十六風よ治ハれて乃ち無ゆり神

ツヨキト謂キト相交ハルヘシ或ハ名所ナトモ考ヘシ

▽ 庭臺点

十八 秤 千かもの居深井の去
〃 稲荷もよりひの中の立茶
〃 鶴子の城布ゆつ雲へ札
〃 さ〻波の中高瀬の響
十九 紫菓子 はつむ雪の心板縁
〃 他国行 ちゝぬ天化の春月
〃 伊岐へ 伊者ゆて口おく
〃 あさ旁 カ色ゆ月り江戸の人九

和ラカニ依ルヘシヨセモノニ心ヲ入ハ

ツクヘシ意〃 ほゝらさゝ中居 撰集の内
句作り方〃 ほゝ〻四つは天の光ハ東の秋
アルヘシ考〃 柳そ〻〻〻〻 船を対てをる
ヘシ〃 碧潮の揺も海だ〻も明
〃 ゆ〻ゆ〻ゆ月て身て清る大石
十五 さ久ゑを活る峯入の雪
〃 風吹か〻〻〻〻〻足袋り入
〃 花の行 揺ゆゆ〻居ハ鶏

▽ 万立点

和うカナ
カタ十八ヘシ
手ニヲハニ
心ヲツクヘシ
ヨクヽ考
分ヘシ

十五 ☒ 雪森円点

十五 代士の什ちうくさぼれち
ちんな仲しく繊さしを吸う
十五 心ヲツクヘシ
十五 年を採の中仙のちん指
十八 楊州ちうな孫を訓やり
十八 仲人の口を弱く無幸く成
十五 秋造の神も仲しく縁あう
十八 掬う乗るや猫も息子も寄つ寄
十五 著芸来ハちんなの美よ悟まれて

一解老情
ノ白ニ高貴
アリツヨキ
白ヨシ又ハ
水車風車
ナトモヨク
云カユレハ
ヨシ

十五 △ 沾涼点

十五 ちのてトのかるよ乳ち扉
十五 神ハ桃りこぶしのおさ前
十五 水車の人よ小をちき陽屋の根
十五 ヽ 乗りの美ひよくつる風車
十五 ヽ 信寿の恩よ元ん七ちるりを云
十五 ヽ 契りの第八中ち人おのかり桃
十五 ヽ 更なの孫よつ人七ち乳陳
十五 ヽ おしろく子よ果足吉香水車

意ノ白云
ヤウムウカシ
強弱相
ニシハ凡せ
盃ニタハ
ウエモノニテ
度シ寄ヲ
得タル人ア
リヨクく
白ノ勢ヲ
考ヘし

▽ 鯉門点

三千のしロよカをいれ給宮の古さ
十八稽ゥ樋くル屋ふいな妻
おりふはてハなうん家姿
ハ、身のを早和小雲もの俗
ハ、度し寄ヲ十五建也こたこの纏をこ孫山
ハ、得タル人ア中京の庫ヨ屋藤のさうつま
ハ、リヨクく嘉ウ死こく亂中一答つく
ハ、白ノ勢ヲ考ヘし世庫ウつく元寿ま明の後

一体ツヨし
トカク弥ウ
シキ句作
サし伊達
十八句作
アルヘし
句面ヲ考
ヘし

▽ 青原点

一体ツヨしトカク弥ウしキ句作サし伊達ハ十八句作アルヘし句面ヲ考ヘし

十五 ハ、ウ上ハ、ハ、深し

ツヨキ勾仮
ヨシ名所
勾ヨリ考
ヘシ安情
ノ勾仮モ亦
手柄アリ

十五 ☒ 催林点

十五 立風なかやま毎のまとかい
、 雲ゐはひとつ他の遠白
十五 皆連して雲田の京ハ少へり
十五 人をまくくよ淀の歌ゑ
、 院ンしゝ白くくもりる淀ハ
十五 女の律ハ年鐘をこハ
、 生の猿ついくくめをれば
、 踊らの法を第ふ山

和ラカ成
分ヨシ水
辺ノ道具
又ハ種モノ
ニテ度シ
高点アリ
ハス勾
ヨリ心
ヲツクヘシ

十五 △ 眠牛点

十五 弥いものよかとをとこ新の民
、 接めつくきえるの高人
十五 仏師ものの山つうあく
、 高新竜接蛇新の冬原
、 茅仏ハ新の時くを切
十五 新白ハ長くまくん鳥智ハ
、 陸さくまの猿のあるよ薬れる
、 雷の紙新ハ犬を黄点牛ウ

和こうかに仕
立へし

▽ 嘉延点

ニキくしき 十五 如蘭ふかく時雨をあつる
匂愁ハ匂 ニこ谷より二階のあのいとまも
アしゝ 江戸 十 春さ和よ田風そよ〳〵なんて
ノ名所ニテ 機織さきゝ〳〵なる萩入
手酒アリ 西角ちくんよ〳〵町
若匂ヲウ 十五 北ちの芝ちくんよ町
ハシリ仕五 衣〳〵ゑ和くさい素湯
へし 陳中へ人ゑ送る家の窟

強弱ニシテ
七文字ヨリ
七文字ヘ後
ル一取ニ心ヲ
付ヘシ 夏
色ノ匂佐
リマウ考
へし

▽ 秀億点

十八 一本屋て白の鳥〳〵尺る岩の雪
十九 本来の秋よ猫さくもふなり
十五 玉字阪ウ美士よ牛よ頂ゑし
十六 きゝ美士よ嘉紙ゑ書ふ
十五 虫いろ〳〵ゑ隙ゑ〳〵ゑ抗
十五 集ル〳〵ゑ〳〵の美しい僧
十五 あゝ田ハ世て宝義寺後〳〵
十五 横年尺蔓ゑ〳〵絵作如昼

和ヲカナクル
ヘシ志ノ
ヲ三業シ
マウアリ
名所ノ句
ヨリ秀ス

○中和尚

十五 ものいのるを和尚とは合
十六 点茶乃見ル一の点を唐帽
、ゐゐいよ時宜の点ゐ元日
、新らうを点をよ稲の弁
、俗一義あるを生の花聳
十五 物を数を数ふ子の 枕車
、高麗を破る 孫聳
、梅花や点唐弁り 蟬を立

奥人情モ吉
云ヒ世ヲウノカ
ヤラス浮世
ノ世話ー
ヨシ和ヲカ
ナハカカヨ
シ世常ヲキ
ノ句ヨシ
梅モノモ
ツカヒマウ
アリ

十五 高砂乃の表ま俳諧
十六 口句の句ふ九有 新る
、人の字 和紙 まふ史寺第
、ロ々へ 嘘ゐ見る玄坂の歌
十八 ヒ物をま ゐゐ ぬ書ぬの点和
、 ゐ年史ゐ ゐ名ま俳罪る年
十五 数を云ゐ ゐ一るの 新 楼
、 笑ゐゐ ゐ ゐ ゐ 茶紙金

▽紀逸点

和ラカナル
ヒヲヨシ又
大ナル句

十五夕猶うゝ出んかゝ芋ゝ朝日新
茶句ヲヨル　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
又ケノテ分　　大後初ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
タルガヨシ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
歌ヒ茶ノ　　十五夜船の中ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
句悲句ヨ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
決アリ考　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
ヘシ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ

▽ 来仲卓

ツヨキ句ヲ
先情ノ数
ヨヲ名所
モ作リヨ
リテ島
ヲ得シテ
アリ義ニ
出ス京物
ヲヨク〳〵
考ヘシ

十八　猛雲秋の船のなくゝ　切り
　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
十五　快晴名の　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ
　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ　　ゝ

和ラカナリ
実ニアラ
ハスタヨ
ヨリ〳〵考ヘ
ヘシ実情
ノ匂ニ手柄
アリ

十五

○ 霍人臭

十五 むかきよ北くやゝ強人臭
くさ〻 ゆゑ也 ゆゑ也 ゆゑ也
中の町辺の 遠さ 所や
匂ニ手柄 十五 乞食 江戸の 吉原
屋の陽 宗賢 内中へ一種物
捨くれ 捨るもの の花合羽
呼ぶ白〻 ゆきさき 本傷
生花の上へ ゆきさ〻 多 覺

強弱 ニリ
メルノ匂ナリ
スベテ衰 十五
十九匂ニテ
高点ヨトル
教ニ常
ノ匂ヨシ 十五
多ニアラ
ハスノ匂ニテ
考ヘシ

○ 沾山臭

十五 六〻の世度の情 味り 如皆
津ま む 狩 秋の 与 ゆ 敷 路
炭 情 と の 者 ハ 高 き 屋 り 不
教 ニ 常 し く や し む ま き 七 麦
ノ匂ヨシ 十五 な 多 ル も 物 も 豊 川 社
多ニアラ 炬 の と の ル ハ 芸 の 家 う 物 る
ハスノ匂ニテ 家 の 家 の 運 の 味 習 知 ら 武 屋
考ヘシ 家 ぬ 高 く 強 ル 海 ま 迫 ら

少シ強キ
ヨシ也
ケリ可
吉敷ノ白
ミテ手柳ノ
リ白中ニ
柏子アハカ
ヨシ

△ 蒼狐臭

盆枕うも紙いと大
合せ紙し書のをそ
七合ひ常のむこのひ口ふ
ツ〳〵迄入る義の居風呂
ハ紙ハ一般
十五参見寺蓮見の連へ向て
人まんれ〳〵清るを云
ゝ考し皆ふ牡丹陽の矢

強シヤノ下
ヨシ只連
哥ノ仮名
ツカヒ心ダカ
キ白作ア
ルヘシ白面
ヲ考ヘシ

▽ 珠來臭

大竹のつるの井よりあるまこと舟も
ゝさよ衛市都ちお蔡そう乳
ゝいも野ハたこの入道
ゝさこるの大史くあるふ
ゝいちるを老て大うの年寄る
十五歳ともきふ野も美ちん世蔵
ゝ繋つまたの色の意のおれて
ゝ又笑いれん老の陵系

ツヨキ心モ
ヨシトカク
名所ノ句 十五

ヨク作ヘシ

一句ニ寒 廿

情ヲコヽヘ

シ密ノ句

寒ヲ出ヘシ 十五

一漁夫

有りやなしやこゝに人の足
長き夜終り上戸ゆ来て泊るく
る猿よりもなほ猿なる
流るゝ川折し孔て流るゝ
なきりの三年寄の迷
れある網よ寒のくれ川雪
出ゆうけく寒立れ蚊
先のくしう一網ようつ

ツヨキカタメ
大キナル
ヨセモノ 十五

○ 環山亭

水辺ノ鳥
小町ノ人ヲ
抵ハシラニ廿
ヲ度く
高点ヲ得
メリ手ヲ十五さく
葉ニ心ヲ
ツクヘシ

花咲て江戸の浪村を見やる
ゆ落るこの秋
人よく
の迷の
人なるもの
人なるもの
絵ハ
橋の雪よこ

ツヨシ生ルイ
ヨシ枝モ
ヨシヌキ
タル匂ヨシ
名所ナト
モヨシ手ホ
葉大事ト
アフハス匂
ヨクく
考知へし

十五

獨立五百底矣

十六

和ウカ也
梅モノ寂
シキ匂ヨシ
短匂ハヨリ
付ヘシ短
匂ハ付ムウ
カシ秋ノ
匂ニ高良
アリヨク
く考ヘシ

十七

▽ 買明矣

和ラカナリ
ウヱモノモ
ヨミ見立
タル句也
景物ヲ云
ニハミタルカ
ヨミ歳ニ
出ス句ヲ
考ヘシ

〼　母笠点

廿三　山高や母の庭ハ者まあさましく荷
廿　花乃やうきてしく明る夜の秋
、之神の中まに郭公さ屋ハちとこ浴
、蝸へ志のふ八茄子の浴れ乃
十五　牛も帆うけて涼る天王
、子れやこれの名月娘の趣
、流れの秋かな世ゝ待の子
、古ちかもなく雨の滴る付紙

和ラアニ
仕立ヘシ
水辺ノ句
ヨミ植物サ
ニテ高点
ヲ得タリ
水辺ノ生モ
ノヨミ考
ヘシ

▽　田社点

十五　柳ハこころの屋根の傾き掛
廿　蓮ながら人の涼しさ橋をとり
、蓬のて戻りの夢さくらの陰
、元船の障子を上るすずみ哉
十五　流れの名を揺りたく花かる
、涼みつまして黄鳥ほど上る木の木薫
、葵うさく雨のしもれ寺
、田をと陽炎を立りて居し哉

和ラカナリ
手毛葉
カンジニ也

△ 良雨点

廿五 掛ケル〳〵菴ノ黄ノ花
スベテ黄 ヽ 日待ちのつま妻のあやまり
買ノ匂ヨ ヽ 仏くさ〳〵よ 俗人の
シ 掃キ匂 ヽ 以中を忘れ〳〵頂き徒利
ニ高四京ア十五 哥の法や光とふ立なう〳〵
リ ヤシ ヽ 黄りものよ〳〵猿の食傷
ヌキタル匂 ヽ 仏〳〵鄙よ名を分られる前蜜
モヨシ ヽ 蠅ねかり〳〵まいる山眼

和ラカ成
匂作ヨシ
ウヱモノニハ
テノ手カラ
アリコヽ
カニ心ヲ付
ヘシ悪匂
ニ葉シマウ
アルヘシ

▽ 樓川点

廿六 秋の松去黄の原ねぶとうよ
ヽ 寺の大さく入て百度
ヽ 法るう〳〵 蟬ノ匂イて蜂猪
ヽ 月泉のつゆ 船もん 大黄
ヽ 重重よ分を投かして拙把の花
ヽ の蛇 〳〵も羅先尼の蜂去う

和うかゝ
アリ名所
ノ句十ト
ミテ手栖
アリ意ノ
句ニ作ア
ルヘシ

□園二点

十五 采人の花も暗居をくで居点
枝はのくやいせの元日
十五 助去ヵ多形造ひやう買て
ノ 緑色はかけろ多居二戸作
ノ 接拭拭へ作るあらひ髮
ノ 嘉少ゝ能ゝ人拭拭へ家セ
ノ 家ゝ巨燈ゝ居居ゝ

ツヨキカタメ
ミテ一メイ
句作アル
ヘシトケ
メルル句ミテ
高点ヲ得
タリ

▽栖雀点

十五 陰点ゝ畑の多ゝ
ノ 梅ゝ居
ノ 梅ゝ一瓶ゝ新ゝ
ノ 揚四ゝ吹ゝ神ゝ
ノ くゝの気表ハ事ゝ
十五 ゝぬく新ハ秋の葉ゝ
ノ むこい祝ゝを用居ゝ
ノ 屋新ゝ吹きゝ

ツヨこと有
ウアモノモ
ヨし恋句 十五 藤ゑくの虫の建る蚊帳
ノ仕カタ有 十 菊ゑるの女郎花を植る順
生ル イモ 十八 女中よく惚れる時月夜
高点アリ 十八 くるる者よ休む後つき
ヨノ人 ゝ 六十一 よりどころ 松ノ花
じやウ考 十五 ゑる蚊よりある陰の涼の帳
へし ゝ 内換く 死ぬがらの罪
ゝ 京のゐる人とも知れ一時ゐ

子鷹点

和カナル
句作アル
へし恋ノ 十五 冬の梅美男うつくしの水を傳
句ニ作リ ゝ みち紙よ色む初恋のたまりなき
マウアリ 十八 散つゝ洲ち絵よ鶴の萩
植モノ實 ゝ 部屋ゑ海ゑ月もあり外ゑ慶
情ノ句ヨ ゝ くめ女中門松を二合よ安
句面ヲ考 十五 陰ゑ移る事ゑまされ竹ゑ屋敷
へし ゝ 毋組ホも一合ちゑちゑて初恋
ゝ 大うくくえて 遠入月ゑま

有佐点

ソヨシ珍ラシキ点ト
リヨシ美
ニアラハス
匂ヲヨク
々考ヘシ

△ 積羽点

十五 姑も未しき云中の人
十五 会に傷をそふもいそれぬを紙の品
十五 拙ひ爲後先を定まつり
十五 南無阿弥陀仏元後を中合
十五 紅梅世間の外ハみな芸薇
十五 切り紙よりき落ちらり九
十五 黄ハ白の変よ書の像る
十五 濃紫ハ(て居て)も切鄙治

カロリ仕立
ヘシ
シドケリ

▽ 超雲点

十五 林しさ高世度をいれて
十八 白伝モヨ
十八 みるの味を云ぬ浦人
十八 シ名匂
十八 薄の宿少あきめる意
十八 心フカリカ
十八 蕨おものから出る仲人
十五 ロキ匂ミ
十五 枝ゑ
十五 手掛アリ
十五 文面シ方
十五 ヘシ

和ラカナリ
下ノ句カ
ロクトムヘシ

□ 貞屋矣

大きしおもふ元日の耳
悉ノ句ニ　ヽ　麓のさしさしなりけ人の亭
作リマウ　ヽ　雨千家光陰をぬきとり
アルヘシ能　ヽ　抱おもひ俤ぬ柱を為り物
々爰ニ出　十五　俤蝶の作り業ゝまゝふ牛の陰
スク句ノ手　ヽ　夢よ鷹る見て絵ぬのほりまゝ
糸葉ノ者　ヽ　恨とふ寄ゝ屋ゝいりあり
ヘキ歌　ヽ　二而へ地代をゝいりゆ

和ノ戸歳
方十九ヘシ
竹木ノ九十
悉ノ句ニ
作リマウ
アルヘシ義
ニ出ス句ノ手
者ヘシ

☒ 蔦英矣

一千ものうりうた柳ゝまれうを
ヽ　源うゝ流き始るあまの川
ヽ　砌ちきられてかはむ俤ゝ
ヽ　玄冥帳ふるの口へ入きて金
十五　切縁ゝつきて宝の恩知る
上下ゝ康る元日のかさ箔
ヽ　絞うゝの俤蝶ハ石ひな祭
ヽ　あ姿しのやゝゝ乳母のびんぐん

イカニモ和
フカニ作れ
ヘシ古キ物ナ
紙ナトヒリ
ヘシ一句ヨリナセ
付ケリ考
ヘシ

十六
十五

猫立　心祇点

ハ蒙るかも宵のなを出ハ有
ハ有るのの庵く李陳
ハ有つ　このむ　見るうちよ立
ハ書くて編の数見出
ハ書の味方よつく紙つか
ハかとんのやう　牡丹
ハ遠京うつトはものく数
ハ侍をいやうはをとく

強弱ニ元
心ナリ世
上ノ人情
ヲヨリ作
ヘシアニリ
ヌキメルモ
アシ、考
今ニ面白
場アリ
考ヘシ

十五
十五

▽　平砂点

ものの掛子のくこくをふ
悟元の先ニをうくをふ
ハ遠者吟ふて語言活ける
ハ面白よふ変ふく蛇姫
ハ世をを捨て元の面く所お陸
ハ場くを拾ヒ心をおりおて
ハ送俳を達ふく破ふて居る人
ハ考ふとふ舟も罷ふ世ふ為

知らかナリ
ウスモノヨ
シセケリト
カロクトメ
タルタヨシ
考へし

□ 貞暦点

十五 [illegible]

十六 [illegible]

ツヨキカメ
ナリウチ
アガリ名九
ウ作又下
ナニノウ能
心ヲコニカニ
ツケリメ九無
情ヨシ考
ヘシ

十五

▽ 書言永点

[illegible]

和ラカナ
カヨシ名所
古哥ナト十五
トリテ考
ヘシ

乾什矣

十八 姫のしほうゝハ六条の
殿もをしゝぬゝ信の精を
丶 大工の建忠家ヲ和
丶 ゆゝ伝の志を強張
十五 大系の図をもとり檜ゝ里
丶 遠朶の系より系る市の飾り
丶 指揮をさへ有るゝ者長ゝて

強弱マシリ
アリ悪ノ
タニラルキ
詞ヲアタ
ラシクトリ
ナスヘシ貴
色モヨシ
度ゝ点
ヲ得タリ
ヨリ考
ヘシ

祇丞矣

十八 毒ゝ丸有ゝ伝の里たつ
丶 及中ゝ多印料ゝて潰られ
丶 芸者うきゝ乞ゝる安治
丶 ゝ人ゝ歩格ゝ知
十五 ゝをゝ味ゝを
丶 親を嘗ゝ月ゝ毒ゝ山ゝ
丶 地濤ゝ海ゝ猟師ゝ
丶 ゝ知ゝ考ゝ者ゝ校ゝて

和ラカ成
カヨシ賣
色ノ匂ニ
テ手柄ア
リ爰ニ
出スヲ手ホ
葉ニ志ヲ
分ヘシ
マスラカセ

長窪点

十五 分代のくぼしはめ爲故に
十八江戸中ゝ死亡数多よ松隆
江戸あるゝ新ナ仕さゝな業
、伊魯しおしゝ葉柱の力ゞに
十五 世子を拾ゝ扶をかゝる
、故ゝはしの私よ意多
、爰の仕宝居ゝゝ
、大ゝ江戸町の毒ゝ

和ラカ十九
匂ヘ成タル
ヘシ名所
ノ匂モヨシ
下ノ匂ノ
トメニ志ヲ
ツクヘシ
毒ゝ情ヲ
カロク考

渭北点

十五 泥草ゝべの泥ゝゝを持
柱の仮をさゝふ年
十五 田柱の仮をさゝふ年
舟よかゝ手 拵ゝ財まく
十八 引舟ゝ
、舟ゝ
、身清の海まいる業神
十五 内意のこゞれる澄ひ
、ゝ
、雲よりも一毒を結ひ

強弱ニシテ
キヲンジテ
句作ヨシ
サシヲドケ
ニモアルベシ
句面ヲ考
ヘシ

十五 ▽ 尹督臾

横笛のうく笛の板足
陽舟の点をうるる歌ケる
陸ゝの示唆の上なり純
大ゝ無比次も輝く月を巨
十五 杵の
遠ゝの
時月陽母の
春ゝ

ツヨキ所
ナリ世話
事ヲヨク
考ヘシ
ソトケメル
句作ニ手
掛アリ

十五 ▽ 挿尾臾

二十 ゝ
ゝ
ゝ
十五 ゝ
ゝ
ゝ

ツヨキモノ弱モマシルシ

古哥ドリモヨシ喩ヘ　十五

タルヤヨシ　十五

楊ケを下ロ〳〵形〳〵ん馬

薄の言紙へ除の云出

〳〵鶯なる子をはく〳〵

恋ノ匂ハ　十五

ヌキテ仕立　十五

ヘシヨリ

〳〵考ヘシ

△唄国点

〳〵絵摺る印も仏も摺うめ

〳〵ゆるゝ〳〵ふも東寺の物云

〳〵芸苦〳〵博しのいのる廣

ツヨキ匂依タルヘシ匂

大キリ云葉　十五

ツヨク珍ウ　十五

シキ趣向

アリ匂面　十五

ヲ考ヘシ

名所ニモ

高点アル

ヘシ

△旧室点

〳〵この京〳〵出るる風

〳〵さく〳〵中〳〵長恵法師

〳〵恒哥の更〳〵　哥をも摺

〳〵日本を化て〳〵おり〳〵おく大

〳〵みやこの子のこぎつく〳〵つゝむ敷引

〳〵底つゝく〳〵京を廉なる

〳〵風よごれる事場の文

和ラカナル
分ナルヘシ
母子ノ光
情秋時宜
録シリハシ
美ニ出ス
勾作ヲ能
考ヘシ

▽ 英屋点

十五 孝りもとこゝの祖〳〵嵯峨の
十 風の神安丸て人をきふく
〃 公るゝ村の人ゝ庭ちふと
〃 地の舌集つく石の宮よりの
〃 業うりの格ゝきしる和言
十五 之十を紙糸八種もつけ信
〃 接り〳〵絵のこゝろ敷多
〃 指樟多さへ月れハ合点まて

強弱ニシ
リ又ハ勾
ナリ宮嶋
モヨシ酒
仮ノハイ
モ一勾ノ
ムスヒヤウ
ニヲ吉意
勾考ヘ
シ

▽ 再賀点

十五 女の肌を志〳〵如大 利
〃 のゝ心ゆされて起詰まて吐
〃 モ信〳〵〳〵不める之後
十八 吳見ゝ能ゝ能ゝ能ゝ能ゝ能ゝ
〃 一なの能ゝ能ゝ能ゝ能ゝ能ゝ
〃 什和の能ゝ能ゝ能ゝ能ゝ能ゝ
十五 寿麦〳〵寿麦〳〵寿麦〳〵
〃 毛部自暇志信生の誕
〃 嘉の家やの指仏ゝあかの信枝絮

和ラカニ
仕立ヘシ
教ヨシ
又ハ恋ノ
言葉ロ
ノウハツラ
ニテカ分ク
白作アル
ヘシ

□ 金羅点

十五 夢ものさびしあり物ノ
ようなれとてらうの寺の
十六 侍ふ おかしの奇麗なる人の口
ノ 歌ものおかしくて血の和ふ
十七 血色をいろ〳〵て血の和ふ
ノ 居ものすぬ内をの見さて
ノ 年こをさ〳〵れ〳〵ふ
ノ 者ものもやはられり
ノ 逆使のこの恋住義吉

和ラカニ仕
立ヘシウエ
モノ系ヤウ
ノ白ニ体弱
キカメナル
ヘシ白雪
秀ヘシ

十五 里ふるさとを思ふ
ノ 白居うの日のくる
ノ 歌系の哥をたはむる
十八 歌系の哥をたはむる
ノ 果ものもこは
ノ 夜とのきよ
十九 故度へ
ノ 髪髪
ノ 歌志

△ 尤簾臭

傘ヲ
舍人ノ服ヲ云ヒ
京ノ人ヲ
ヒ
田や畑の害を進ぐ
十五 蛍ヲ
色ヨ
皮剥ヨ

勺作ホソク
實情ヲコ
メテモノヲ
ヒシク考ヘ
シツヨキ勺
モアリ業
ヘシ

▽ 吉門臭

小云
入ニ
ムスフ
十五
雜
雜
印

シツリリト
シタハ勺ノ
京色ヲ
十八
京ノ春
辛ひ
親よ
雜路の
物
抱

ツヨキ字ナリ名所ナトヒヨシ共

麦こ麦ス、相油へ四をかろしてる様

ウシ考

、少崎を見くらべ石女のひとり云

へシ

十七 清水よ種つくるのも云やり

十五 ヨしの蛇を居やハ笑の弘

、小鷹の君よ屋敷すめる

、金屋風自よ多侍ふ文こうり

、蓑形歌りよ君をうくら侍翁所

□ 貞堂臭

ツヨキカメナリスコシヨトケメル共

句作アリタシ考ヘシ

、弼ぶて隠子をトゥる蓑の拍

、綿蓑の目口へ這入れ子の上

、雑魚よ波つくされる風くまり

十五 入宮くの目紙つぶされ侍放きこる

、解ぶくの侍る共影よこほれ物

、蓑編の拍物を見て笑ハヤ侍

、拍おもひ見も蓑よをんへもの

、秘多をるうよ亭の小竹

▼ 長隠臭

和ラカニ仕立ヘシ

糸ヤウノ見立ヨシアマリシモギヤノ匂ハアシヽ愛ラシヽ匂ヲ考ヘシ

△ 臭悪点

十五 てのひらの小町うぶ毛ものこる後こゝろもとのれうこゝろ尾花ハ風を書き遣ヒ

ヽ 立ヨシ流るゝ活るゝ足中活人貴

ヽ 小十帖寄ちふ恋屋敷

十五 年を足立て見ハる造営

ヽ 女ニ何ものもの情士の連火

ヽ 紙波をもの渡と引切

ヽ あゆめるくて家の毒小喜蔵

強弱ニシハ八ヘシ寒情ヲ曲ヲ交ヲ作リ名カヨミ名ノ糸色モヨミ光燐ノ匂作リ考ヘシ

▽ 湖十臭

三十 忘れ物ハ行きくるゝハ振り袖り

十五 牡丹ハ姫れハ遺言の毒

十 治ちふ気くさしの毒

十五 あを唯毒ちて白蓮

ヽ 格子へ臭ハくさむ居つゝる

ヽ 惚られハ時をかゝへく気の抜て

ヽ 市場ハ海ニ結をれハ川

ヽ 虫気うつくゝ家ハ女舞

強弱ヲ論セス古哥ヲフニ五メル十五

○ 海旭点

おもしろや底ふかくもみえる船の紙
匂ミテかゝ、俤の撫しる稲も多しまゝり
ヲトケタル十五 隣もたゝ屋のゆる雪雪
モヨシ心細、松の風の神をいのちの網代哉
カナハモヨシ十八 けはしまく、も稲ありみせる
業ニフリ十五 掛の風うへいまの種かゝしつき
匂作モアル、夫婦少し秋一掛る屋掛舩
ハヘシ、如よしるる付るやあふ

ツヨキ句作アリメシ

目立メル十五 牡丹の絵のつさおしうる
ツリニテ十七 太刀拵の神ゝ蔦ゆしきりく
高点アリ、終よ屋れる鼓かのくら餐
業ニ出ス十七 如りよ拵つて風もるこ手紗
句ヲ考ヘ、探ゝ麻入る蓬のやれ人
十五 さ人言ちを孕ゝ茶屋のうをつき
、刻よ〳〵 や陸奥のこゝ
、松明の夫もて丈よ暗れ金

△ 風頂点

和ヲカ成ル句作名所ヲモ十上ヨリ見立メル句ツリヤスキ趣向アルヘシ

十八

独立

白潭矣

菊栄やいつかも扇のよう笑ん

十九

池の蛙

つゐ例の金魚咎ハぬ

のうれしさよりほこ

敬さ公に橋半り人まも

和ヲカ注立ヘシ釈

無常寂立

莫ノ句位立

三ノ千摘

アリ文面

ヲ考ヘシ

十八

十五

▽ 雑口矣

蟬の蛻

一時うるさく柿へ

指折さへ陽炎うらちるる

悲哀を空蟬の

十九

ちくてもかまく

ちくてもかまく

ちくてもかまく

ちくてもかまく

和ニ百十九
義ニ出ス
句并京物ニ
ニ四ツツク
ヘシ豪ノ
句ニ仕立
マウ有ニ十五
カ

貞因点

□ 貞因点

ヲのなんぢ笑ヒかる冊
うハむの 陽子の怪物を口ハ
第事ハ雲うう 稲ハこの虫身る雲の蝉
句ハ恵ノ 恵物ハ人の恵なり
ハ云ハ 晩の故屋
や少ハ 蕭寂ハ蕭寂ハ蕭寂の
こ東ハ 羽衣の
ハ雪ハ
ハむさ ハるの中の裾の袴

フヨシ但シ
長句ハ和
ニカニ短句ニ
ソハツヨキ心
ニ仕立ヘシ
ヤシトヨトケ
メハ句作モ
有タシ

貞風点

□ 貞風点

因物ハむうの橋夜の上洛物
句ハ和の 旗文 物ハ休ハ咎ふ
文ハ 実性寄るの口へハ
ハ 実ハ
ハ ハらハ 彩し供
ハ 物を
十五 入遠 祝ケてかつる無やや
ハ 名ハ くしけり 唖の
ハ 俳諧の 雪ハ

強弱に三
りて仕立
へし名所カ
ウヱモノナ
トニテ白作
アリメシ

▽ 由林点

十八 猪の毛なれば尾なるべし八茂ふのこ
〃 鶴金山やさうり状うらぶ
〃 うあをを鶴子の面うは編ぬこ
〃 大小四方人生破のかくを
〃 恵方の事を賜ふ儀別
十五 言れを引くこ奉よ人参り
〃 伝れしこ伝受辞世見ま事
〃 牡丹のうちはてかへ伝来文

和うカナル
白多ニ折
くツヨキ
白高点ニ
アリ白作
ニヨルヘニ三
白ノロタリ
分合考へ
し

▽ 存義点

十八 二二所えへ猪くこ伝を作
〃 又言葉るとも起る 首途
〃 本男をうり踊る時りく
〃 ゑ拭を無くかれ八猪ま楽
十五 大くこ元ぬくこ芦川
〃 鶴う蓑くく 四のこるあり
〃 受鄭ま面白ちくく蝋ち義
〃 分ましてゆふ四の方

和ラカナル
方之句作
考ヘシ釈
ノ句ニテ手
柄アリ意
句ニ意味
アリ

○ 杜変点

十五 名月に滝きく親と案はけり
、 はしためぬきけり后ふ人
、 庭訓の文の中段九十二まて
十五 八十の長寿優をまつ人に立て
、 淀深のくやくまち賊盗人
十五 小侍にあるまゆる門子ゐる
、 東の照に中秋のうつゝ蔵
、 尭まく貧乏神を見送し

ワヨキ句作
タルヘシ釈
数ノ句イカ
ニモ情ヲ込
テ作ルヘシ
急ノ句ハ
オモヒ切リ
タル句ツク
リニテ点ヲ
エタル所アリ

▽ 春来点

十五 何をりふやしも秋の行ハれ
十五 雲夕顔達しもはまりくれり寒そ
十一 一の后の尾へ踊づ君
、 皆かくら桝く仕りに鳳凰
、 梅もとろくもあるき川面
、 俵君ハ海ここ袖の入れ
十五 着うく湯屋ハ紹恵の文政術
、 今鍛ん中の隔しきた鳴

ツヨキ心也
名所ノ句
作アルヘシ
云葉ヲカサ
リメルガヨ
句面ヲ考
ヘシ

十五

△ 万丁点

枕うたものを云ふ〳〵大こと
ハ園鈴ハむかふ樣者のんなり
ハ地蓋よ新〳〵金鶯の孤
ハ樹〳〵みなたゝ石筧水の老
ハ下蔭や駒ゐるよ物をおもハやる
ハ祖父の代金を背戸の松風
ハ仕事ハ地蓋の句ふきの峯
ハ考ふ〳〵所る草待

ツヨキ句ト
ヨハキ句ト
シハルヘシ又
句作リニ
大事アリア
ラハス句ヲ
考ヘシ

十六

△ 清泉点

ハ埋〳〵かく疲て沸〳〵さ緑既
ハ蛙〳〵ふ幸既〳〵古やさまるなん
ハ苔ハ未〳〵泉深さよ菜ゝ麦で
ハ岩を〳〵因う（の居場合なし
ハ緑屋の後鶯よ竹藪の吉
十五 冥ゝるの握り麦を神の田
ハ姫ゝ朱一るく鏡裂をすぬ
ハ子規物を大根のふ用也さハ

強シヤノ一シルノ麦ニ出スノ句ヲ考ヘシ

▲ 菊童女

十四 うくひすよ東食喰ヤて〻忘れ
ハ花の裏へたなす 彩造
十八 幸又う異見をハり和もの
ハ 寡 起の意一云もなし
ハ 元船ちゝ中 禅をこゝス
十五 人器もなきちゝなる吹礼
ハ 山よてなをしかゝる年祭
ハ しゆ〻和かいて時り俳諧

版

新潟乃原言葉一義之をもしそこに
ゝりしまゝ本を版ゝ一書を
俳意叢の教ゝ和ゝ伝し
伝ゝ母ゝ〻ゝ〻ゝ渓ゝ雪ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
俳ゝ之ゝ白ゝ稀ゝ乃ゝ稀ゝ有ゝ

嘉其著書に載せ、まこと紀氏
ともに用ひ、ともに学を講じ、ともを
ともむ益ありと信ず。大いにこの原ひ
はじめ、ともに名あり。しかるに先
輩作ありて、ともに世に行はれ、
喪服の礼、神の御心をいさめあり。
はた乃ち、ともつこの方法延年長活に

ともに先王の法、聖人の精
聖人ともに、ともに是れ日月
なり。ひたすらこれ行ひ乃ち知し
志ありて、ともに名はもと時
感じ、ともに、ともの道を求む
ともに、時移り世変じ、
遠化乃流れ、ともに教ふ

[illegible]

世に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十七十四史の内
紀逸湖十英屋

輯次畫的

書肆
副錄
鏤工

本石町四丁目大横丁
神田八軒町

小倉屋金五郎
板木屋茂八